

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年11月24日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4671500090
法人名	医療法人 一桜会
事業所名	さくらのお家よしだ
所在地	鹿児島市東佐多町269-2 (電話) 099-245-5500
自己評価作成日	令和4年10月26日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ過で外出が思うようにできていないが、広い庭や畑を活かし、外での活動づくりをしている。母体のクリニックと連携し、入居者の健康管理、リハビリを活用することにより入居者の心身状態の維持に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、始良インターからおよそ5分程度の田園地帯に位置しており、利用者は庭の桜の木々や柿、ビワなどの果樹を眺めたり、周辺の山々の景色や自然豊かな情景や四季を感じながら穏やかに暮らしている。

理念は、「その人らしく生き生きと健やかに楽しい暮らし」を掲げ、ホームページやパンフレットに掲載、玄関に掲示して、法人の理念、「誠実に、明るく、楽しく、生き生きと」とともに職員に周知されミーティングで話し合い、カンファレンスで振り返りをおこなっている。

管理者は、年2回、職員と個人面談をおこない、意見や要望などを聞き取り勤務状況を把握し、給与、労働時間などの条件に反映し働きやすい就業環境を整備している。人事考課システムがあり、職員個々の目標達成に向けて取り組むとともにサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。

法人の研修体系が構築されているが、ITCを活用した研修会への参加があり、外部研修も取り入れてスキルアップを図っている。

食事は、法人の管理栄養士が献立を作成し、本人の嗜好や好み、食事形態、疾病に伴う食事制限などを勘案して栄養管理をおこなっている。

食材は、地産地消をモットーとしており、米は契約農家から購入し肉、魚や野菜などは地域業者から毎日届くなど食を通じて地域交流している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	日々のサービス提供の中で、理念に沿った内容になっているかを意識することを大切にしている。	法人やホームの理念があり、玄関に掲示され、パンフレットやホームページなどに掲載している。管理者は、新人教育の中で理念について触れ、申し送りやミーティングで話し合い理念に沿ったケアの実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過により、地域とのつながりを作る機会が得られていないが、挨拶や施設周りの環境整備に努めている。	新型コロナウイルス感染拡大予防のため地域交流活動については自粛している。地域とは、食材などを調達する際に、地元の米や肉、魚などを購入し調理に活かすよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	コロナ過により積極的な活動はできていないが、見学や相談に対応し、自事業所だけでなく、他サービスの説明も含めた援助を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ過により実施できていないが、場所等を検討し、実施していく予定である。	会議は、書面にて開催されており、事業所の取り組み状況や利用者の暮らしぶりを具体的に伝え情報共有して、聞き取りし、出された意見や要望などを参考に職員全員で話し合い、サービスの向上を図り、事業所の運営に活かすよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>日常的な申請や更新、報告書の提出、また地域ケア会議に出席して情報提供を行い、連携を図っている。</p>	<p>地域包括支援センターからの地域ケア会議への参加要請に応じ協力関係を築いており、福祉事務所や他関係機関との連携にて権利擁護事業の活用を支援している。行政からは、文書やメールなどで研修などの案内があり積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>法人の身体拘束委員会での月1回の会議、会議録の配布による情報共有、年1回の法人内研修を実施している。</p>	<p>法人の身体拘束委員会への毎月の参加があり、身体拘束や権利擁護、虐待を意識したケアの実現に取り組み意識向上を図っている。年1回の研修では、知識や技術などの研鑽をおこない、ミーティングなどで話し合い身体拘束や権利侵害などがないよう取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>年1回の研修による学習を行っている。また、ケアについて職員間でコミュニケーションを多くとることを大切にしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護に関する研修を実施している。現在制度を利用している入居者が居り、関わる中で学びを深めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容について、不安や疑問に思いやすい部分の説明には特に配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ過により以前行っていた家族会議が出来ていないが、面会や電話での会議に加え、ラインを利用して意思疎通のしやすい環境づくりに努めている。	家族などの面会については、特段の時間制限などをすることなくいつでも面談していただけるよう柔軟に取り組んでいる。管理者は、電話やラインなどを活用して意見や要望を聞き取り、ミーティングなどで話し合いながら情報共有し、より良いケアの実現に向け取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングによる意見の収集、主任会議での提案など、段階的に意見が伝わる仕組みを作っている。	法人とは組織的に伝達ができるよう取り組んでおり、管理者や職員は、人事考課システムもあり面談にて意見交換し、休憩時間はリフレッシュができる体制が構築されている。また、チームコミュニケーションツールの活用により、業務効率改善化を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回の人事考課時の面接での聞き取り、目標設定を行い、職能等級を明確にしている。タイムカードの導入による勤務状況の把握、有休の積極的な取得に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>コロナ過により外部研修は実施できていない。法人内の研修委員会による研修を定期的実施している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ過により積極的には出来ていないが、必要に応じて電話で情報交換を行っている。地域ケア会議で交流を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族にも協力をもらいながら、不安解消に努めている。また、要望等を出せるよう、安心感を持ってもらえる関わりを大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前の面談で、これまでの様子等を把握し、不安な点についてできるだけ明確に説明することを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所として出来る事とできないことを明確にし、出来ない部分についてどのようなサービスがあるか、情報をしっかり伝え安心してもらえるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	する、してもらうの関係ではなく、役割を持ってもらう事や気持ちに共感することを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>全てを事業所で賄うのではなく、家族にも積極的に関わってもらえるよう努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>コロナ過により頻繁には出来ていないが、自宅周辺へのドライブや、家族だけでなく友人、知人の面会も積極的に受け入れている。</p>	<p>コロナ禍で、面会や外出を控えているため、現状持てる力で利用者に寄り添うケアに努めている。利用者の体調や天候などを勘案して少人数にてドライブを楽しんだり、他科受診などを通じて地域へ出かけているが、電話の取り次ぎや手紙のやりとり、携帯電話の活用をされる方もおられ支援している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>仲の良い同士だけでなく、関わりの少ない利用者同士が、レクなどを通じてお互いを認識し、関わりが増えるよう努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービスが終了した入居者について、その後の経過の把握や、家族からの問い合わせ等への対応を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話等の中で出る本人の気持ちを大事に、スタッフ間で共有することを大切にしている。困難な場合は家族とも相談し、協力を仰いでいる。	本人のしたいことややりたいこと、趣味などを把握して、本人本位に過ごしていただけるよう検討している。意思表示の厳しい方などは、本人の表情や雰囲気などで感じ取り家族に確認しながら職員同士情報共有を行い支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報や、本人・家族との会話等で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察、申し送り、職員間の情報交換、ミーティング等で行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族との連絡を密にして、同時にカンファレンス、モニタリング等を行い、それぞれの意見やアイデアを反映し作成している。	管理者や職員は、カンファレンスなどで意見交換し、アセスメントやモニタリング結果を踏まえ、現状に即した介護計画書を作成している。家族には、電話や面談にて目標やサービス内容などについて説明をおこなうとともに、意見聴取し計画に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護ソフトを活用し、日々の記録をタブレットで入力、大事な出来事をまとめて見やすくするなど工夫を行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所としてできることは、できるだけニーズに沿うよう努力をしている。必要時は他サービスを活用、紹介している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	米を地域の方から購入したり、コロナ禍以前は行事に招待したりしていた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診、週1回の看護師訪問により適切に医療を受けられるようにしている。	母体の医療機関による訪問診療を受けたり、他科受診にて適切な医療が受けられる体制が構築されており、緊急時など昼夜問わずオンコール体制が図られている。週1回、訪問看護師の健康チェック、薬剤師などの専門職との医療連携がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>状態変化があったときには、法人内クリニックの看護師に相談、指示を受ける体制が整っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入退院時は医療機関との情報交換を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に重度化・看取りについての説明や情報を提示している。また、本人、家族の希望を踏まえ、主治医や必要な多職種も含めた支援を行っている。</p>	<p>契約時、重度化や看取り対応の指針について説明し同意を得ている。管理者や職員は、早い段階から主治医や看護師、家族などと話し合いながら本人や家族の意向を聞き取り、納得のいく最期を迎えられるようチームケアにて支援に取り組んでいる。直近で看取りの経験があり、今後活かせるよう検討している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事故発生、急変に備えマニュアル化している。また、実際の対応した事例を情報共有している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人の防災委員会へ参加し、まにゅあるを作成、見直しを行っている。年2回の避難訓練を実施している。	地域の協力体制があり、運営推進会議のメンバーでもあるため情報共有しているが、避難訓練は事業所単独で実施している。停電対策、米や飲料水の備蓄を行い、日々の記録はICT活用がなされ紙媒体からクラウドサービスやタブレット端末活用に移行しつつあり法人と連携している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、声掛けや対応を行っている。	法人の研修体系があり、「専門研修年間計画」を作成し、内部研修にて自己研鑽している。入居前の生活習慣や生活歴を重視し、人格を尊重しプライバシー保護に配慮したケアに努めるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表しやすい関わりに努め、本人が納得できることを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のしたい気持ちを大事にし、必要な時には選択してもらうなど配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	着る洋服の自己決定や、コロナ禍以前は、家族の協力ももらい、行きつけの美容室に行く等の支援を行っていた。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼりの準備やテーブル拭き、食材の皮むきや下ごしらえ等、一緒に行っている。	法人の管理栄養士が献立を作成し、栄養管理をしているが、食材は、地産地消にて毎日ホームに届く。米は、地域の農家と契約を交わし常備している。また、栄養士に行事食などの相談をおこない、食事形態を工夫し食事を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が少ない時には、家族に協力をもらい好みの物を準備してもらっている。必要時には医療につなげている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの促し、必要時には訪問診療を依頼している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	必要以上のオムツの使用はせず、トイレでの排泄を促している。	排泄のリズムを把握してトイレ誘導し、ポータブルトイレを活用しておむつへの排泄を減らし排泄の自立支援をおこなっている。布下着の方もおられるが、大半は、リハビリパンツに尿取りパットを使用している。夜間は、ナースコールを鳴動させ職員がトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動、食事形態の工夫をし、便秘予防に努めている。必要時は管理栄養士や主治医に相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一定の決まりは作っているが、その時の本人の気持ちや体調に合わせて支援している。	基本的には、午後から入浴を支援しているが、本人の希望や必要性に応じていつでも入浴ができるよう柔軟に取り組んでいる。入浴剤を活用したり、同性介助にて入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室では自由に休めるようにしている。ソファ等で休んでいる時には、居室で休まなくても良いか声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報や変更があった際の情報共有を大切にしている。状態の変化がみられた場合は速やかに主治医に伝達する体制を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人での楽しみ事を保証しつつ、集団での楽しみや、出来る事の確保に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ禍の為できていないが、家族との外出やドライブ等の行事を、今後も実施する予定である。	外出は控えているが、体調や天候を見ながら、敷地内を散歩したり、日光浴を楽しんでいる。桜の時期は、庭の桜の木々の満開の花見を体感することができる環境である。コロナ禍ではあるが、少人数でドライブを楽しむ季節を感じられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>トラブル防止の為個人で所持はしていないが、必要なもの等有ればラインを活用し速やかに家族に伝わるようにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人、家族の要望に対応している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感のある壁絵や飾りつけを行い、明るさや室温等、生活の中でその都度配慮している。</p>	<p>対面式キッチンがあり、広々したりリビングには、テーブルや椅子、ソファなどが配置されており、採光があって温かみのある家庭的な空間である。壁には、利用者の作品などが掲示されており季節を感じられるよう装飾がされている。また、換気や清掃、消毒が定時におこなわれ感染予防を徹底している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>一人ひとりの馴染みの場所を大切にしている。教養空間は自由に過ごせる様にしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時から使い慣れたものを持ち込んでもらい、配置等も本人、家族と相談しながら行っている。	ベッドは、利用者の身体機能などを考慮し事業所が準備したり、利用者自身がレンタルにて使用している。また、自宅から使い慣れた品を持ち込み本人が居心地よく過ごせるよう工夫したり、書初めやぬり絵などの作品を掲示している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要時には目に見える方の掲示や物の配置の工夫を行なっている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない